

あたたかい
あひさつ、声かけ
思いやり

＝上小鴨＝ 青少年育成

第 43 号
令和 5 年 3 月 31 日
発行 上小鴨地域づくり協議会
青少年育成部
印刷 鳥取県農協印刷

6月5日⑥ カヌー体験



昨年の6月5日(日)に関金の大山池でカヌー体験を開催しました。
当日の天気予報は雨でしたので、開催が危ぶまれましたが、曇天でスポーリには最適なコンディションでした。
参加人数が多かったため、カヌーの艇数が足りず急遽2回に時間を分けての開催となりました。
毎年参加してくれている児童も多く、慣れた感覚で漕ぎ出す児童や初めてで恐る恐るカヌーに乗り込む児童もいましたが、それぞれが非日常的な空間を満喫しているようでした。
インストラクターの方の適切な指導がありますので初めての児童も安心して参加できます。次回開催の時は保護者の皆さまも一緒にトライしてみたいかがでしょうか。

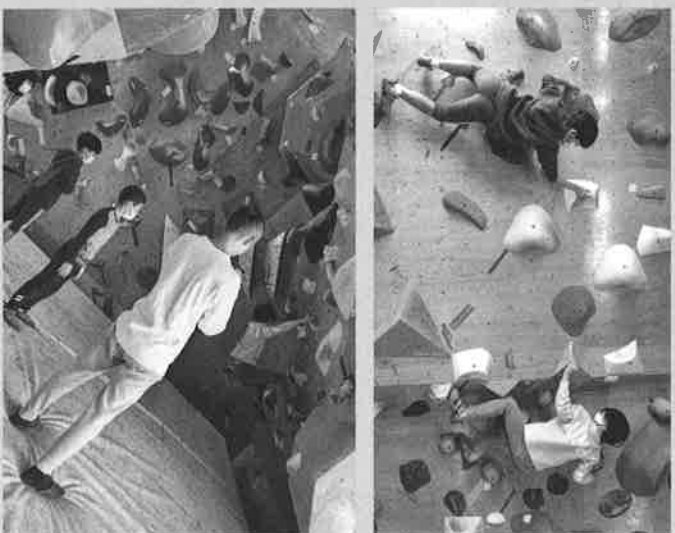


『大山池は水田のかんがい用として造られた溜池で、正式な名称は「狼谷貯水溜池」ですが、大山の姿がさかさに映ることから「大山池」と呼名がつけられました。農業用ため池としては、鳥取県内一の大きさ。四季折々の彩りと大山のコントラストは、訪れた人々の目を楽しませます。夏はキャンプ場として賑わい、「因伯の名水(ふれあいの水辺)」として県から指定されています。』(倉吉観光情報HPから引用)

10月23日⑥ ボルダリング体験



今年度も福吉町のボルダリングジム パバーンスにてボルダリング体験を行いました。
初めて参加する児童もいましたが、インストラクターさんに教えてもらおうと積極的に挑戦し、登り方を自分なりに工夫したりとても楽しそうな様子を見る事ができました。
ボルダリングが初めてでもレベルにあわせて挑戦できますので、来年度は親子での参加してみたいかがですか？普段見られない子どもさんの様子が見られるかもしれませんよ⑥



12月10日⑥ クリスマス お菓子作り教室



西倉吉町のシエ・ヌオトラの早田さんに教わり、クリスマスモチーフとしたアイシングクッキーを作りました。アイシングクリームでのデコレーションが中心の作業でしたが、子ども達それぞれのカラフルなクッキーが出来上がりました。クリームを出す力加減に苦戦している子もいましたが、使う色やデコレーションの材料の配置を変えてみると、工夫していました。



12月18日⑥ 親子料理教室

上古川・蔵内子ども会



「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマに食生活改善推進員の馬西さんと岸田さんにお話していただきました。紙芝居もあり子ども達も分かりやすく健康の大切さを教わりました。
コロナ過のため親子でクッキングはできませんでしたが、家で出来るレシピを教わり、さっそく家で作ってみたいと言われました。

レシピ
ごはん
・ポークビーンズ
・ツナときゅうりの酢の物
(12月はフロッグコーでもよい)
・レーズンポテト



上小鴨食育教室
(蔵内上古川子ども会)
テーマ 早寝 早起 朝ごはん
健康で元氣に、1日中、毎日「朝ごはん」を食べて、規則正しい生活を送る習慣をつけよう！
日時 令和5年 12月18日
場所 上古川公民館

令和4年11月23日(水・祝)

4地区少年少女のつどい 『4いぐるぐる探検団』

「4いぐるぐる探検団」とは・・・4つの地区から参加してくれた5・6年生の児童がイベントを通じて知り合い合いになり、仲間づくりの場になることを願って行った企画。社小学校を出発し明倫地区、小鴨地区、上小鴨地区を歩きながら、途中10カ所のミッションポイントでゲームやクイズなどを班員同士で協力して行い、上小鴨小学校を目指すイベントです。

全体参加者：小学生21人、中学生ボランティア44人 大人スタッフほか保護者多数（ありがとうございました！）

6年生参加者の感想

ぐるぐる探検団は、他の学校の人と仲を深めることができるよい機会だと思います。いろいろな地域を歩いて知らない道や建物などがあつたので知ることができてよかったです。ミッションでは、班の人と協力して進めることができたと思います。また、景品がどうかうれしかったです。中学校でもたくさんの人と仲よくなりました。

中学生ボランティア感想

倉吉西中学校3年 行田 虎太郎

僕がボランティア活動を通して学んだことは、仲良くなることの難しさです。僕はボランティア活動があるまでの日にレクリエーションのネタを探しネットで見つけたクイズを持っていきました。しかし、クイズの時だけはみんなで仲良くしゃべってくれたけど、その後も同じ学校の集団だけで話すみだいなことになってしまいました。しかし、何度か話かけているうちに一部の男子が学校の枠を超えて話してくれたのでとてもうれしかったです。この経験を後々生かしていきたいです。貴重な体験ありがとうございました。



ペースメーカーグループ
先頭を歩き、全体のペースを保つ役割



トータルサポートグループ
最後尾を歩き、コースのグリーンアップも行う

西中中学生ボランティアも頑張ってくれました

＜本部担当＞
各班の点数を記入したり商品の準備や交通整理担当。



編集後記

地域の皆様には青少年育成部のイベントにご理解、ご協力を頂きありがとうございました。お陰様で本年度も無事にイベントの開催が出来ました。3年3ヶ月のコロナ禍は世界規模で人類に大きなダメージを与えました。その中でも子ども達への影響は深刻です。当初は学校の休校が長く続き、学校行事の開催が出来なくなり、給食の時も黙食を強いられることになりました。3年間のマスク生活で友達の表情をあまり見ることなく過ごしたことで、コミュニケーションでの表情交換が気薄になってしまったことや、如月は、大人の表情・口元を見て「こうやって口を動かしたら声が出るんだな」と感じ言葉を獲得していくようなので、それができない環境下にあることは想像ができます。

また、マスクをしていることで、二酸化炭素過多の状態が慢性化して健康被害が発生すると医師からの指摘もあります。他県では「マスク着用による弊害から子ども達の健全な成長が妨げられている」と摂津市の保護者から教育委員会に要望書が提出されており、その他マスク依存症の問題等も指摘されております。

コロナ禍による青少年育成部のイベントは感染防止予防対策のガイドラインを遵守した開催を心がけていましたので、今年度も慎重に場性者が出た場合は中止の対応を取りました。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけについて政府は2023年5月8日に、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を示しました。そうなるといよいよ通常だった毎日が戻ってくることがありますが、マスク依存症がもたらす個々人の対応の違いで暫くの間微妙な空気が続くかもしれません。基本的な事ではありますが、そもそも論としてマスクにウイルスを防ぐ効果はありません。マスクの繊維の隙間の穴は5マイクロメートルですが、一般的なのはウイルスの大きさは0.1マイクロメートルです。ですので、飛沫や花粉を抑える事が第一でウイルスは素通り状態です。

子どもたちに教えていかなければならない私たちがしつかりとしたエビデンスを持って行動する事が大切だと感じます。

青少年育成部の来年度の目標は、季節性インフルエンザ対応に移行した形でイベントの開催を目指します。地域の皆様には引き続き子ども達へのサポートを宜しくお願い致します。

青少年育成部長 川崎 英二

「4いぐるぐる探検団」企画担当の感想

2022年11月23日。3年ぶりに少年少女の集いが開催されました。コロナ過での集合イベントの開催にはクリアすべき条件がいくつかありました。密集を避ける、飲食をおこなわない、換気を良くするなど。それに加え、イベントの目的である校区外交流、中学生との交流を楽しくおこなわなければなりません。従来の形である西中学校に集まり、色々な授業を受けながら一緒にご飯を食べて新しい友だちを作るやり方では、当然クリアできませんでした。そこで、過去のやり方を全て廃し、新たなイベントを作るという考え方へ切り替えて、今回の企画に至りました。

まず、イベントの舞台を室内から屋外へ変更しました。これにより密を避け換気の良い環境が確保できました。しかし11月中旬過ぎは、気温の低下や雨といった天候によるリスクが発生します。後押ししてくれたのは企画委員の方々からの、「悪天候、それも思い出だ」という言葉でした。いささか乱暴な気でしたが、困難を乗り越える経験は確かに必要ですし、最近のイベントは厳重に守られ至れり尽くせりで不便やアクシデントが排除され参加者から不満が出ないよう恐る恐る企画運営をするものばかりでした。

楽しんで楽しむ時代ではありませんが、だからこそ不便や苦勞を経験する場が必要なのかもしれません。不便や苦勞は、経験するとそれを克服する知恵や発想が生まれます。仲間と共に経験すれば絆も生まれます。そして思い出も刻まれます。

他校の人や中学生、知らない大人とグループを組み、自分が住んでいる地域や、グループの人が住んでいる地域を一緒に歩き、クイズやミニゲームをやりながら雨に濡れたり風に吹かれたり束の間の陽の温もりを感じたりした今回のイベントでした。一体どんな思い出として刻まれたのでしょうか。今後とも不便で苦勞をする企画を考えたいと思います(^ ^)v